4年間のカリキュラム

1 学年

建築の設計製図や構造計画、環境計画について、初学者向けの入門的な概論を中心に高校までの学習履歴に応じて、実習・演習や講義を通して学びます。

2 学年

各分野を横断的に学び、専門性と総合性を高めていきます。建築・都市デザイン分野では建築の設計や計画、歴史について、構造・環境エンジニアリング分野では建築の構造や材料、環境について、それぞれ実習や講義を通して学んでいきます。

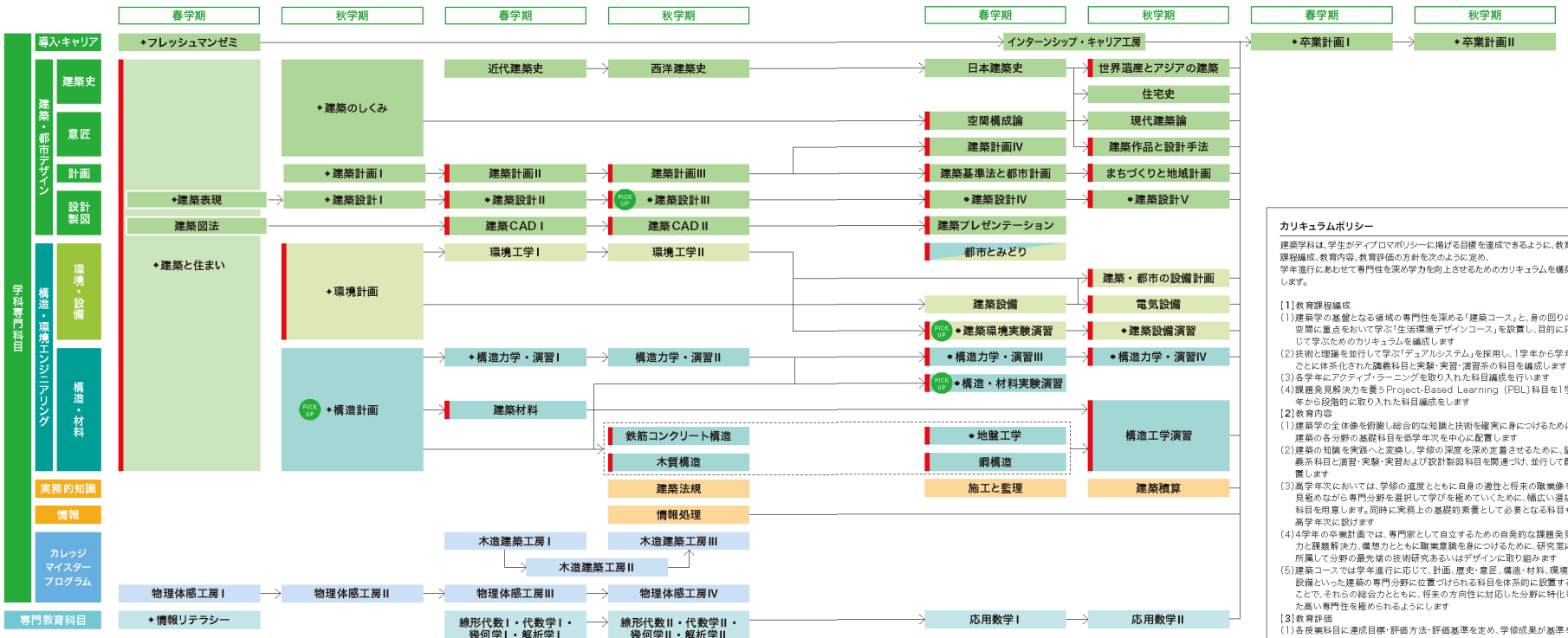
3 学年

身につけたい職能や、携わりたい建築の種別や業務に合わせさらに専門性を高めます。用途や周辺環境、地域特性、社会状況を考慮したデザイン手法など建築学の知識と技術を深めていきます。インターンシップでは建築の現場も経験できます。

4 学年

研究室に所属して最先端の研究や設計の現場に触れつつ、教員による直接指導のもとテーマを定めて卒業計画に取り組みます。

建築コースの専門科目
◆必修科目
●選択必修科目



カリキュラムポリシー

建築学科は、学生がディプロマポリシーに掲げる目標を達成できるように、教育課程編成、教育内容、教育評価の方針を次のように定め、学年進行にあわせて専門性を深め学力を向上させるためのカリキュラムを構築します。

[1] 教育課程編成
(1) 建築学の基盤となる領域の専門性を深める「建築コース」と、身の回りの空間に重点をおいて学ぶ「生活環境デザインコース」を設置し、目的に応じて学ぶためのカリキュラムを編成します
(2) 技術と理論を並行して学ぶ「デュアルシステム」を採用し、1学年から学年ごとに体系化された講義科目と実験・実習・演習系の科目を編成します
(3) 各学年にアクティブ・ラーニングを取り入れた科目編成を行います
(4) 課題発見解決力を養う Project-Based Learning（PBL）科目を1学年から段階的に取り入れた科目編成をします

[2] 教育内容
(1) 建築学の全体像を俯瞰し総合的な知識と技術を確実に身につけるために、建築の各分野の基礎科目を低学年次を中心に配置します
(2) 建築の知識を実践へと変換し、学修の深度を深め定着させるために、講義系科目と演習・実験・実習および設計製図科目を関連づけ、並行して配置します
(3) 高学年次においては、学修の進度とともに自身の適性と将来の職業像を見極めながら専門分野を選択して学びを極めていくために、幅広い選択科目を用意します。同時に実務上の基礎的素養として必要となる科目も高学年次に設けます
(4) 4学年の卒業計画では、専門家として自立するための自発的な課題発見力と課題解決力、構想力とともに職業意識を身につけるために、研究室に所属して分野の最先端の技術研究あるいはデザインに取り組みます
(5) 建築コースでは学年進行に応じて、計画、歴史・意匠、構造・材料、環境・設備といった建築の専門分野に位置づけられる科目を体系的に設置することで、それらの総合力とともに、将来の方向性に対応した分野に特化した高い専門性を極められるようにします

[3] 教育評価
(1) 各授業科目に達成目標・評価方法・評価基準を定め、学修成果が基準を満たした際に単位を認定します